

報告

第 41 回 技術士全国大会 (福岡) 報告

羽二生 望

1. はじめに

第 41 回技術士全国大会は、2014 年 11 月 9 日 (日)～12 日 (水) の 4 日間の日程で、全国から 500 人を超える出席を得て、福岡で開催されました。北海道からは、昨年札幌に多くの出席を頂いたことから、能登本部長をはじめ 36 名が参加しました。

2. 大会の概要

(1) 大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、技術士が国民の福祉の向上に貢献するパートナーとしてさらなる努力をしていく決意を掲げた、「技の連携 人・もの・くにづくりのパートナー」でした。

大会宣言は、このテーマに掲げたパートナーとしての技術士が行動する規範を宣言したものであり、九州本部青年技術士交流委員会の上原志穂技術士により宣言されました。内容は次のとおりです。

私たち技術士は、本日第 41 回技術士全国大会で福岡に集い、技術士同士の親交を深め、技術士活動のさらなる発展に寄与することを誓いました。ここに大会宣言をいたします。

- 1 地域の技術者の声を反映し、地域に根ざした活動を展開することにより技術士の活動の場を拡大していきます。
- 2 技術者の模範、地域技術者のリーダーとしての存在を自覚し、技術士の継続研鑽に努めます。
- 3 技術士制度の普及・啓発のための広報活動を充実し、国民に広く認知されるよう技術士活動を行います。

(2) 会場

大会会場は、福岡市博多区石城町にある福岡国際会議場で、隣の福岡国際センターでは、丁度、大相撲 11 月場所が開催されており、道行く人は相撲の

観客が大半を占めていました。

(3) スケジュール

【11 月 9 日 (日)】

- ・第 2 回技術者倫理ワークショップ
- ・第 10 回全国防災連絡会議
- ・青年技術士の集い
- ・各部会
- ・ウェルカムパーティー

【11 月 10 日 (月)】

- ・技術士活動体験発表会
- ・大会式典
- ・記念講演
- ・交流パーティー
- ・パートナーズツアー

【11 月 11 日 (火)】

- ・テクニカルツアー (日帰り・1 泊 2 日)

【11 月 12 日 (水)】

- ・テクニカルツアー (1 泊 2 日)



写真-1 福岡国際会議場

3. 全国大会

(1) 大会式典

大会式典は、福岡国際会議場 3 階メインホールに約 400 人近い参加者を集めて開催されました。大会運営委員長である甲斐九州本



写真-2 大会式典風景

部長の歓迎の挨拶に続き、吉田会長の式辞、文科・経産・農水・国交各省並びに福岡県知事からの祝辞、祝電披露の後、休憩を挟んで記念講演以下のプログラムへと続きました。

(2) 記念講演

記念講演は、若田宇宙飛行士の恩師である麻生茂教授(九州大学大学院工学研究院航空宇宙工学部門)からの講演で、題目は「これからの宇宙旅行について」でした。

講演では、宇宙旅行の始まりとして、アポロ 11 号の有人月探査、アメリカ初の宇宙旅行(1961. アラン・シェパード)、世界初の宇宙遊泳(1965. アレクセイ・アルキポフヴィチ・レオーノフ)の紹介から、宇宙旅行に対する法整備、宇宙旅行の募集について動画を交えてお話され、続いて、宇宙輸送システムについてカプセル型の宇宙船から、スペースシャトルに代表される翼を持った宇宙輸送システムが出現した経緯とその理由について説明されました。さらに、九州大学での研究内容(再使用型宇宙往還機の空力特性の研究、宇宙往還機再突入時の空力加熱の研究、次世代推進システムの研究、環境適合型航空機の研究、QSAT-EOS(つくし)の研究開発)のご紹介をされた後、若田宇宙飛行士との対話の中から見えてきた、これからの人材育成のあり方、子供たちへの期待について私見を述べられました。宇宙博士とされていますが人材育成に共通の内容だと思いますので、以下にご紹介します。

子ども宇宙博士になるための十ヶ条

1. 考えていることを、積極的に発言しよう。
2. 自分から積極的に工作(ものづくり)に取り組もう。
3. 失敗を恐れずに取り組もう。多くの失敗の果て

に、成功がある。

4. どんなことも見逃さない観察力を持とう。
5. どうしてだろう?なぜだろう?と疑問を持とう。
6. 思いついたこと、考えたことをすぐメモしよう。
7. すぐに答えが見つからなくても、その疑問を持ち続ける心の強さを持とう。ネバーギブアップ!
8. きちんと物事に取り組もう。いい加減な態度からは、いい加減な結果しか生まれない。
9. チームワークは大切。チーム全員から信頼される人間になろう。
10. 人の話を素直に聞く力と、また同時に、物事を批判的に見る(自分の目を養う)力を身につけよう。

(3) 交流パーティー

交流パーティーは国際会議場に隣接する福岡サンパレスの「パレスルーム」で 270 名の参加者を迎えて開催されました。大会運営委員長の開会の挨拶を皮切りに、主催者挨拶、福岡市長の歓迎挨拶、鏡開きと続き、乾杯の発声と共に開宴となりました。

アトラクションは黒田節、日本舞踊など伝統的な



写真-3 ジャズセッション

「和」の催しに続き、地元で活動する 3 人の女性ジャズアーティストによる全国大会福岡特別セッションが行われ、ステージ前にはカメラ、スマホを掲げた多くの観客が詰めかけました。北海道本部からも多数の参加者がおり、ステージに上がってご挨拶の機会を得ました。



写真-4 北海道本部ごあいさつ

その後、次回の全国大会開催地(北陸本部・富山市)の紹介・アピールの後、パーティーは盛会のままお



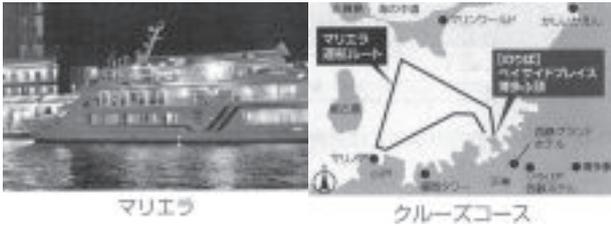
写真-5 北陸本部合同二次会

開きとなりました。

また、交流パーティー後は、次回開催地北陸本部との二次会に流れ、さらに盛会となりました。

4. オプショナル行事

(1) ウェルカムパーティー



マリエラ

クルーズコース

式典前日 11/9
に開催された、ウェ
ルカムパーティー
は、国際会議場近く
の博多埠頭「バイサ
イドプレイス」から、
レストランシップ



写真-6 マリエラ乗船

「マリエラ」に 250 名を超える参加者を迎えての開
催となりました。

パーティーは船上の 4 つの会場に各部会が分か
れて催され、各会場では、波を切る微かなローリン
グと船窓からの夜景と共に、酒食を味わいながらの
歓談が弾んでいました。天候も穏やかだったため、
最上階デッキにも多数の参加者が上がり、心地よい
夜風を満喫しまし
た。

その後も記念撮
影、歓談など、思い
思いの時間を過ごし
て、およそ 2 時間弱
のナイトクルージン
グは終了となりました。



写真-7 北海道本部の皆さん

(2) テクニカルツアー A

日帰りのテクニカルツアー A は、「東田第一高炉
史跡と北九州エコタウンへの旅」と題して、ユネス
コの世界遺産への登録を目指している旧八幡製鐵所
をはじめとする「九州・山口の近代化産業遺産群」の
一つである「東田第一高炉史跡」を最初に見学しまし
た。1972 年に役割を終えた高炉がそのまま保存整
備されており、間近に見る施設の大きさと痕跡を通
して参加者の皆さんは往時の八幡製鐵所の隆盛を感じ
取っていた様子でした。

次に隣接する「北九州イノベーションギャラリー」



141109-11第41回技術士全国大会(福岡) 撮影・松原

写真-8 東田第一高炉史跡を背景に
北九州イノベーションギャラリーの芝生にて

に寄って施設見学をした後に大変美味しいお弁当を
味わいました。当施設は北九州のものづくり技術の
保存と伝承を目的とした施設で、「年表のギャラ
リー」などのユニークな展示が見学できました。

最後に「北九州エコタウン」に移動し、当該施設の
中核施設であるエコタウンセンターにて説明を受け
た後、医療用具リサイクル、自動車リサイクルなど、
一部の工場内(撮影禁止)を見学しました。この北九
州エコタウンは、全国に先駆けてスタートしており、
施設も充実しています。当本部事業委員会主催
(2014 年 7 月 25 日)で見学した石狩リサイクルセ
ンターを何倍にもした大きさでした。自動車リサイ
クルの工場が流れ作業で解体され、最後に
巨大なプレス機で四角い鉄の塊になって出てくる場
面を見た参加者の皆さんは、愛用者の末路を覗き見
した感じで見入っていました。

(3) テクニカルツアー B

1 泊 2 日のテクニカルツアーとして、熊本城、阿
蘇火山博物館、八丁^{はっちょうばる} 原地熱発電所、九重“夢”大吊
橋の視察を行いました。

1 日目、ツアー参加者 31 名が博多駅から出発し、
九州自動車道を利用して熊本へ向かいました。最初
の視察場所は、加藤清正が 1601 年から 7 年の歳
月をかけ築城した日本三名城に数えられる熊本城
(別名 銀杏城)です。残念ながら天守閣は、西南戦
争の 3 日前に焼失し、昭和 35 年に復元されたもの
ですが、「武者返し」と呼ばれる石垣の曲線は、とて
も美しいものでした。

昼食後、車中にて水の都・森の都である熊本県、



写真-9 熊本城

九州のカルデラ等について、九州本部の兼子技術士、清崎技術士による解説を聞きながら、一路阿蘇山へ向かいました。

当初予定の阿蘇山火口見学は、8月30日9:40に噴火警戒レベルが1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げられ、火口周辺1km以内が立ち入り規制となったことから中止になり、火山博物館のみとなりました。博物館では、館長による詳細解説班と楽しみながら学ぶ班に分かれましたが、さすが技術士、多くの方は詳細解説班を希望し熱心に説明を聞いていました。



写真-11 池辺伸一郎館長による詳細解説

宿泊先は、雄大な阿蘇五岳が一望できるというホテル角萬でした。生憎の曇り空で五岳を見る事は出来ませんでした。温泉で英気を養いました。

2日目は、日本最大の地熱発電所である八丁原地熱発電所にてタービンや気水分離器、冷却塔などを視察しました。地熱発電は火山などがある地熱地帯において、どの個所でも実現可能ではなく、比較的浅いところにキャップロックと呼ばれる不透水層を有した地熱貯留層が存在しなければならないとのことでした。

視察の最後は、大分県九重町にある日本一の大吊



写真-10 説明される川副副所長

橋「九重「夢」大吊橋」です。何が日本一かといいますが、中央支間390m、最深部からの高さ173mが、人が渡る吊橋として日本一だそうです。総工費約20億円(国・県の補助なし)で、2006年10月完成以来868万人が訪れています。高所恐怖症の私は、周りの紅葉を見ることもなく、前を歩くカップルの背中をひたすら見るようになりました。



写真-12 九重渓に架かる大吊橋

5. おわりに

本大会開催期間中は穏やかな天候に恵まれ、各種プログラムも滞りなく実施されたようです。北海道本部からの参加者も、各行事を通じ全国からの参加者との交流を深めることができたことと思われま

す。なお今回参加報告では、テクニカルツアーAは森事務局長、テクニカルツアーB・記念講演は長井事務局次長からのレポートでお届けしました。

羽二生 望 (はにう のぞむ)
技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン 技術情報部

